

【関係機関アンケート】

【別紙報告書1】

アンケート実施内容

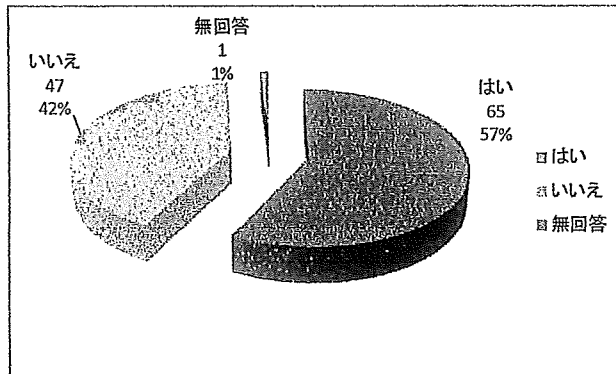
関係機関250カ所に発送 113機関より回答（回答率45.2%）
平成27年1月に実施

【平成26年度 関係機関アンケート 集計結果】

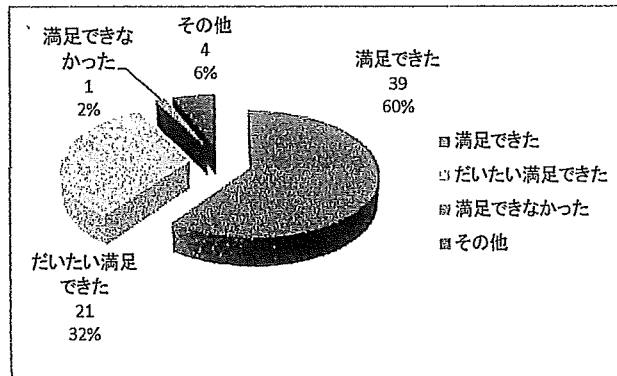
・郵送にて実施 — 回答方法、Eメール、ファクシミリでの返信

250機関、団体に発送 113機関より回答 回答率 45.2%

問1 貴機関・団体ではこれまでに当室を利用したことがありますか。



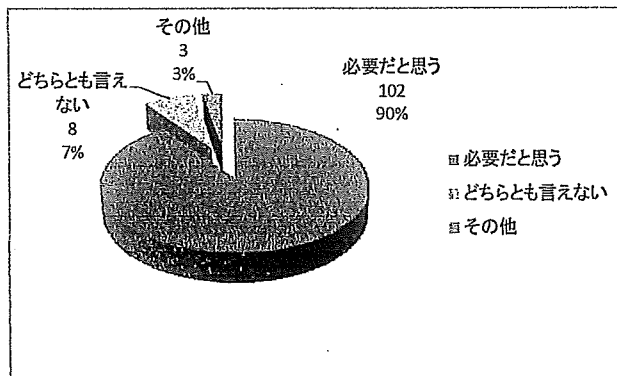
問2 問1で「はい」と答えた方にお伺いします。当室の対応、サービス、支援内容等には満足できましたか。



その他-自由記述内容

- ・当施設では、なかなかご支援できない生活困窮の内容も対応されているので、大変ありがたいです。
- ・ケース連絡はしましたが、その後の結果連絡がありませんでした。
- ・相談者に貴機関紹介する形を取っているため、職員間の直接のやり取りはない。
- ・相談者の紹介までの対応をしているため、満足度については回答できません。

問3 すべての方に伺います。当室が行っている生活困窮者への個別的、継続的、制度横断的、寄り添い型、伴走型の生活再建支援をする事業の必要性について一番近いお考えをお知らせください。



その他-自由記述内容

- ・事業内容の事業実績等わからないので回答できない
- ・協会として今後、事業の認知を深めたく存じます。現段階では回答をひかえさせていただきたい。
- ・勉強不足のため、回答できず申し訳ありません。

問4 当室に対するご意見、提言、その他お気づきの点等自由にお書きください。

・いつも大変お世話になっております。これくら様の様な機関が、千葉の中核地域生活支援センターの様な機能も併せ持ち乍ら、県内隈なく行き届く支援体制が構築されることを期待しています。

・貴支援室の活動、いつも多くの方々の心の拠り所になっており、何としても充実、継続叶うようにと願う一人です。少数精鋭のスキルの高いスタッフの方々であることも様々な方面からお聞きします。私どもは間口は狭いですが相談などもさせて頂く側ですが、できれば、なるべく多くの方々の利用者さんの追跡調査を深め大切なデータとしてほしいと思います。多忙承知ですがこれからの展開に大きなカギがあると思っています。

・当相談室は、沿岸部に有り、資源が少ないところで、これくらには快く引き受けて下さり、その存在は、本当に有難いものでした。今後も、変わらず連携していければと切に願っております。

・相談者に紹介した窓口には、一報入れて欲しい。仕事と住居を同行しながら支援して頂けるので助かっている。

・今年度に関しては、支援機関として、あまりコミュニケーションが取れなかったと反省しております。今後は、そのあたりを改善し、必要な方々への情報提供等をすすめていきたいと考えております。今後ともよろしくお願い致します。

・今後ともよろしくお願い致します。

・幅広い対象者に対して、制度横断的な支援を行っている点について必要性が高いと思う。

・病院では地域に出での支援がなかなかできないので、家庭訪問、相談、申請手続きの同行などを期待します。どうぞよろしくお願い致します。

・いつも講座に参加したいと思いつつも、シリーズになっているものへの参加が難しかったり、日程が合わないなどで参加できずにおります。そのため、支援頂ける内容や具体的な連携方法について分からないまま、電話相談、情報交換のみとなっているのが残念に思います。今後、当方の研修会へ講師としてお願いする等、ご相談していきたいと思いつつも。

・生活困窮から立ち直った例などあれば、教えていただきたい。また、生活保護以外にも支援する制度などあれば教えていただきたい。

・必要な事業であると思われれます。様々な支援内容がありますが、その方が必要としている支援を、具体的にかつすみやかに行うことが求められていると思いつつも。

・いつも処遇困難事例についてご支援をいただき、心から感謝申し上げます。生活困窮者は複合的な問題を抱えていることから、関係機関のネットワークがとても重要と思っております。今後も、密な連携や情報交換等、どうぞよろしくお願い申し上げます。

・今後もケース会議をより重点的に行うため、ネットワークにより連携しながらすすめていきたいと考えます。よろしくお願いいたします。

・大変御世話になりました。ありがとうございました。

・高齢者の相談・支援を行っているが、高齢者本人や家族で生活に困窮するという相談も増えている。連携をとってかかわったりアドバイスをいただいたりできればありがたいと考えている。

・特にありません

・40代、50代の支援機関が少ないので、助かります。

・生活保護受給者が内職相談に来られたことがありましたが「これくら」の担当者と一緒にしたので相談者は本心を云わず、型通りの相談で終わったように感じた。本音を聞き、後で報告することもできれば…

・いつもお世話になっております。弊社の出来る支援は「住む場所」と「住みながら出てくる問題点への解決」かと思われま。貴室が行っております生活困窮者への支援事業には、大いに賛同すると同時に、職員の皆様の誠実な支援に、少しでも協力できる様に今後もつとめていきたいと存じます。

・今年度ご相談させて頂いた、青山のS・Yさんの時、ご本人も相談員(私)も行き詰っていた折に、ご本人に適切に寄り添って下さり、大変助けられました。あの時のご対応がなければ、S・Yさんの現在はあり得ません。当センターも、伴走型の実効性を重々感じています。福祉サービスの枠だけで支えきれない、多くの方の為の支えとして、重要な役割を担われていると感じています。今後とも、宜しく願いいたします。

・貴室について、事業内容への理解が不十分なところがあり、連携の具体例を知ることが、必要だと感じる。

・相談事例がありましたら、また利用したいと思えます。よろしくお願いいたします。

・突然のご相談時も、緊急性を考慮して即対応下さり大変助かりました。対象のかたにより、色々なアプローチ方法での多角的援助が必要と思えますので、共働支援が出来ていければと思います。

・フットワーク軽く動いて頂けるとありがたい。相談には乗らせて頂くが、結論が出なかつたり最後まで関わってもらえないことがあるので、密な協力体制をとっていきたい。

・興味ある講座が多く企画されているが、日程的に参加しづらいものが多い印象です。
・土・日中心の企画だと参加しやすいのですが。

・大変な仕事を適切に努力していることに敬意をもっています。これからも必要な分野で、頑張ってくださいよう期待しています。

・これからますます重要な取り組みになると思えます。組織同士をつなぐ役割も必要になっていくでしょう。

・1.生活困窮者支援事業は新しい取組であり、おおいに注目しています。労福協(中央)でこの制度の実施を働きかけてきました。2.同じような、関係する団体で意見交換する場があればいいのでは。

・関わりの難しいケースなど、その他個別に対応していただきありがとうございます。今後も、ご支援いただきますよう、よろしく願いいたします。

・いつもお世話になっています。

・いつもきめ細やかなご支援ありがとうございます。「これくら」さんの性質上、生活福祉課やハローワークに近い場所に事務所があっても良いような…。

・地域の中で、これくら様があることで、とても大きな安心感があります。また、スタッフの皆様も、日々様々なご苦労も多いかと思い、心から頭が下がります。不安定な時代だからこそ、これから増々、これくら様の取組が必要とされ続けていくと思いますが、個人としても影ながら、皆様のことを応援しております！

・お金の使い方についてのアドバイスや一緒に家計簿をつけ、自分で収支管理ができるような支援があれば良いと思います。(収入が得られても、上手く収支の管理ができず、再度生活に困窮する場合があります)

・直接接点がないため利用したことがありませんが、PR等によりより多くの生活困窮者支援に結びつけばと思います。

・事業内容が良くわかりませんが、上記のとおり回答させていただきます。

・相談に来る方はどこに相談したら良いのか迷いながら来所されます。そこで専門的アドバイスがもらえますからと紹介させて頂いておりますので、これからもよろしくお願い致します。

・大変申し訳ありませんが、貴室の存在を存じあげませんでした。

・本当に困っている人もいる中で、依存心が強く「なんでもやってもらおう」という人が利用してしまうと大変だろうなと思っています。(いつもご苦労様です)ただいつも何かあれば細かいところまで支援していただき、大変ありがたく思います。

・生活困窮者自立支援制度の開始にあたり、これららのこれまでの取組が同制度にしっかりと引き継がれ、支援が手戻りすることがない事を期待しています。

・特にありません。

・女性支援を行っている当センターの機能をご理解いただきながら、貴機関との連携をさらに図っていきたくので、よろしくお願い致します。

・生保受給、住居、食糧etc.の支援、の、その後引き続き、就業に向けての支援の継続をお願いします。

・今後も宜しく願い致します。

・相談室をお借りすることができ助かっております。一方、隣のブースのやりとりが、全て聞こえるハード面の改善がなされれば、さらによりよいものになっていくものと考えております。

・これまで数回の利用しかありませんが、対象者の年令を聞かれて、断られたり、盛岡市外(周辺の町)の事もあり相談になかなか結びつけにくい印象があります。こちら側の自助努力が足りない事もあると思いますが、事業の内容がよく見えないところもありました。しかしながら、生活困窮者への生活再建支援は、今後も必要な事業なことから継続して実施していただきたいと思っております。

・平成27年4月に生活困窮者自立支援法が施行され、社会福祉事務所及び県が、委託等により自立相談支援事業を実施するようになると、近隣に設置された機関に相談し、支援していただくこととなることから、貴室への相談は少なくなることが予想される。(洋野町の場合は、岩手県(県北広域振興局(久慈市))が委託する機関(久慈市社会福祉協議会(未定))に相談することとなると思われる。)

・今後とも、よろしく申し上げます。

・当センター相談者に関して、他の機関も含め連携していただきました。今後の生活再建に向けての具体的なアドバイスと共に、同行し決定、手続きを支えてくださったおかげで、相談者が少しずつ前に進むことができます。ありがとうございます。

・生活困窮者自立支援事業との差別化はあるのか。

・直接的に関わって頂くケースはまだ少ないが、高齢者への支援に入った先で、その息子などにすでに関わって頂いているケースは何件もあり、多問題を抱える家族への支援という点で、今後もぜひ続けていただきたい事業だと思っております。

・平成26年度の某研修において、貴機関担当者様から今年度の取り組みの大きなものにホームレス対象のフードバンク活動が、これからの課題として保証人が付けられない方の住居探し、フードバンクの充実、利用者の居場所作り、人と人との結びつきについての”貧困”の解消が挙げられるとお話を伺いました。貴機関の紹介が相談者にとってゴールとならないケースもあり、各種制度の活用が可能になるまでの”つなぎ”の支援という側面をきちんとご説明くださったのは、紹介する側にとって貴重な情報だと思えました。

・この用紙一枚で失礼致します。いつも大変お世話になっております。

・生活困窮者については、現行法令や各種制度の枠組みから外れてしまう、いわゆる「隙間事案」が生じてしまう場合があります。このことを防ぐためには貴室の官民横断的な取り組みや連携及び生活困窮者の実情に合わせた寄り添いが、今後も重要になると思います。

・当機関は、就労による自立を支援していますので、生活相談機関との連携は今後も必要と考えております。今後の課題として、生活困窮者の方が、生活保護に落ち入らないための就労支援をどのように関係機関と連携し行うべきかと考えており、さらなる連携をお願いしたいと希望しています。

・特にございません。

・先日の住田町のかたの件では大変お世話になりました。今後、被災者の自宅再建に伴う転居も増えてくるとわれ、ますます地域間での支援連携が必要なケースが出てくるとわれ。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

・今後、相談者の紹介やケースの情報共有など連携を図っていければと思います。よろしくお願いいたします。

